

育苗箱施用剤の広域処理による穂いもち防除の省略

1 背景・目的

水稻の育苗箱施用剤（以下、箱剤）は、葉いもち防除法として広く普及しているが、穂いもちに対する効果は劣る。そこで、箱剤を集落全体で広域処理し、穂いもちの発生源となる葉いもちを効果的に防除することで、穂いもち対象の本田防除省略の可能性を検討する。

2 技術のポイント

- (1) 集落内に無防除圃場が混在する個別防除集落では、箱剤の単独処理により葉いもちは低く抑制できるが、穂いもちは周囲からの菌の飛び込みにより被害許容水準以下に抑制できない（図）。
- (2) 全圃場に箱剤を処理した広域防除集落では、葉いもちは極めて低く抑制され、穂いもちは本田防除を省略しても慣行防除並の被害許容水準以下に抑制できる（図）。
- (3) 以上より、箱剤を集落全体で処理することにより、発生源となる葉いもちが広域に抑制され、穂いもち対象の本田防除省略が可能となる。

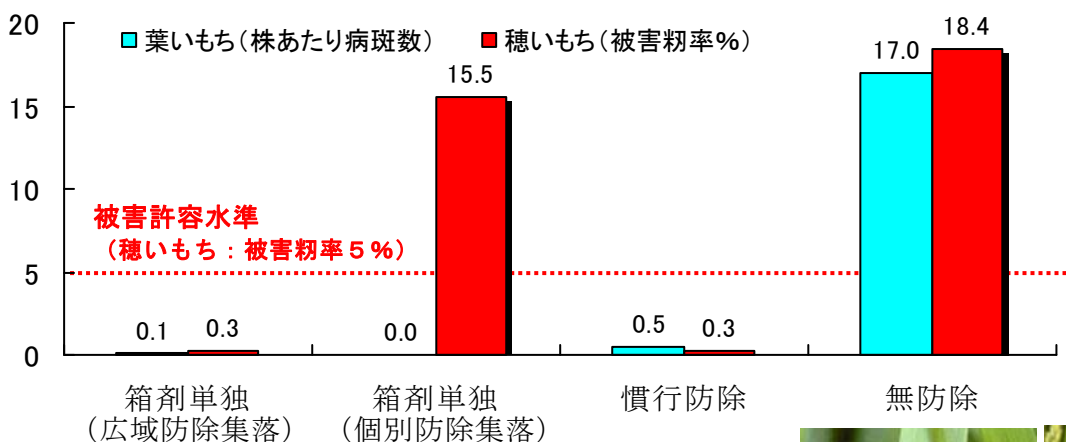


図 箱剤の広域施用によるいもち病の防除効果

注. 広域防除集落：全圃場箱剤を処理し、本田無防除とした。
 個別防除集落：箱剤単独処理圃場、箱剤と本田防除を行った慣行防除圃場、無防除圃場を設定した。

3 成果の活用と留意点

- (1) 本試験は、周囲を山で囲まれたいもち病常発地の集落で行った。
- (2) 梅雨明けが大幅に遅れるなど穂いもち発病に好適な年は、本田防除を組み合わせる。



写真 イネいもち病

問合先：生物資源グループ TEL 076-257-6911
 担当者：塚本昇市・安達直人